

川田明生 PORTFOLIO

東京デザイナー学院 インテリアデザイン学科 インテリアデザイン専攻



— HELLO —

初めまして。川田明生と申します。
この度は私のポートフォリオを閲覧していただき、ありがとうございます。
います。

私は高校卒業後、航空自衛官として3年間勤務していました。しかし、今の仕事を続けていくことに疑問を持ち、自分らしさが発揮できるようなクリエイティブな仕事に憧れ、専門学校へ入校しました。

これからも更なる勉学に励み、自分の憧れを実現できるよう精進して参ります。

✉ a.kwawata@icloud.com

01.

外を持つ家

暮らしが街と繋がる 場にとらわれない新しい暮らし方

02.

TERRACE ROOM

自分だけのテラスを暮らしのすぐそばに

03.

2000冊のライブラリ

情報の森を散策する体験

01.

外を持つ家

暮らしが街と繋がる 場にとられない新しい暮らし方

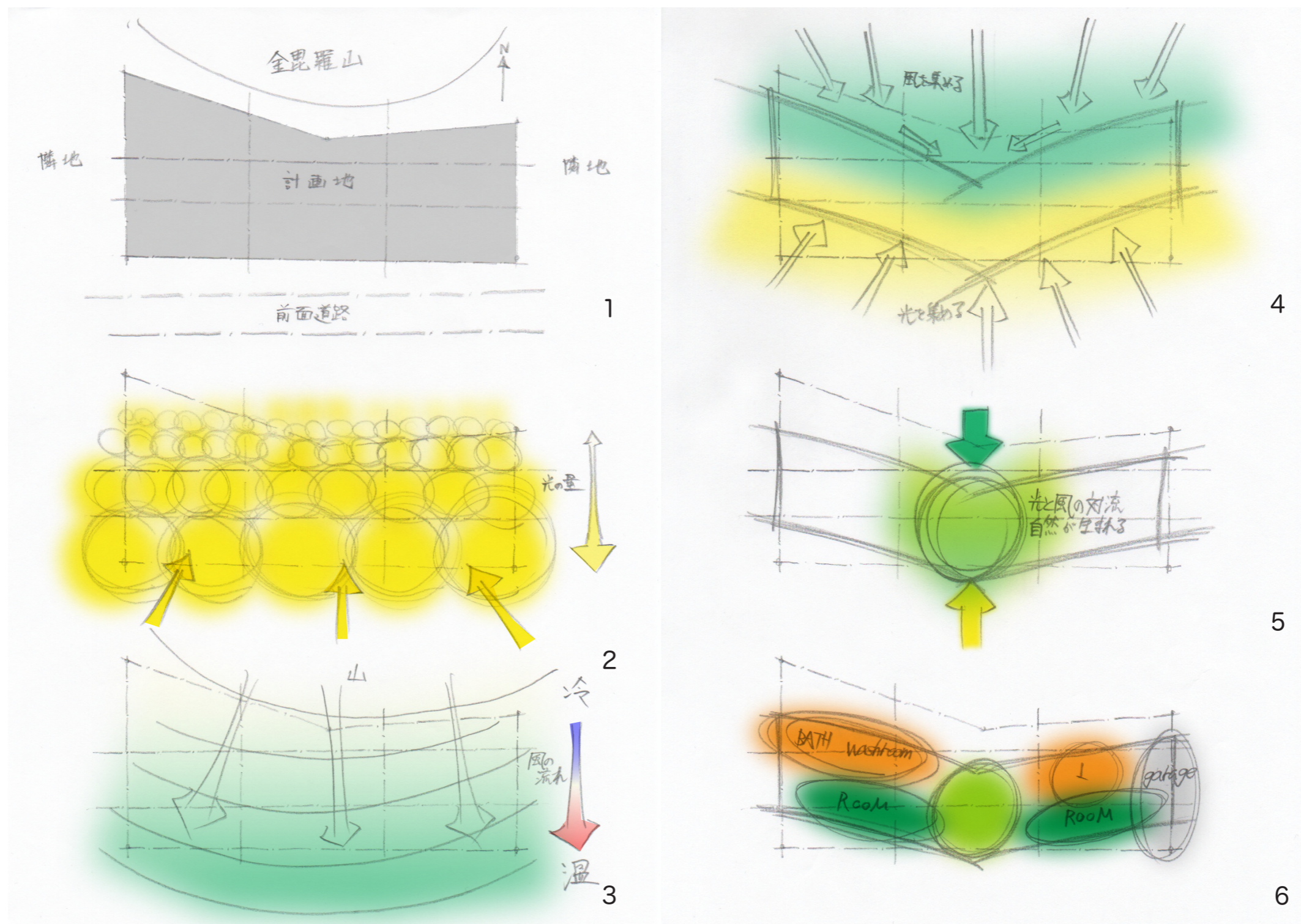
CONCEPT

...バイオフィリックデザイン...

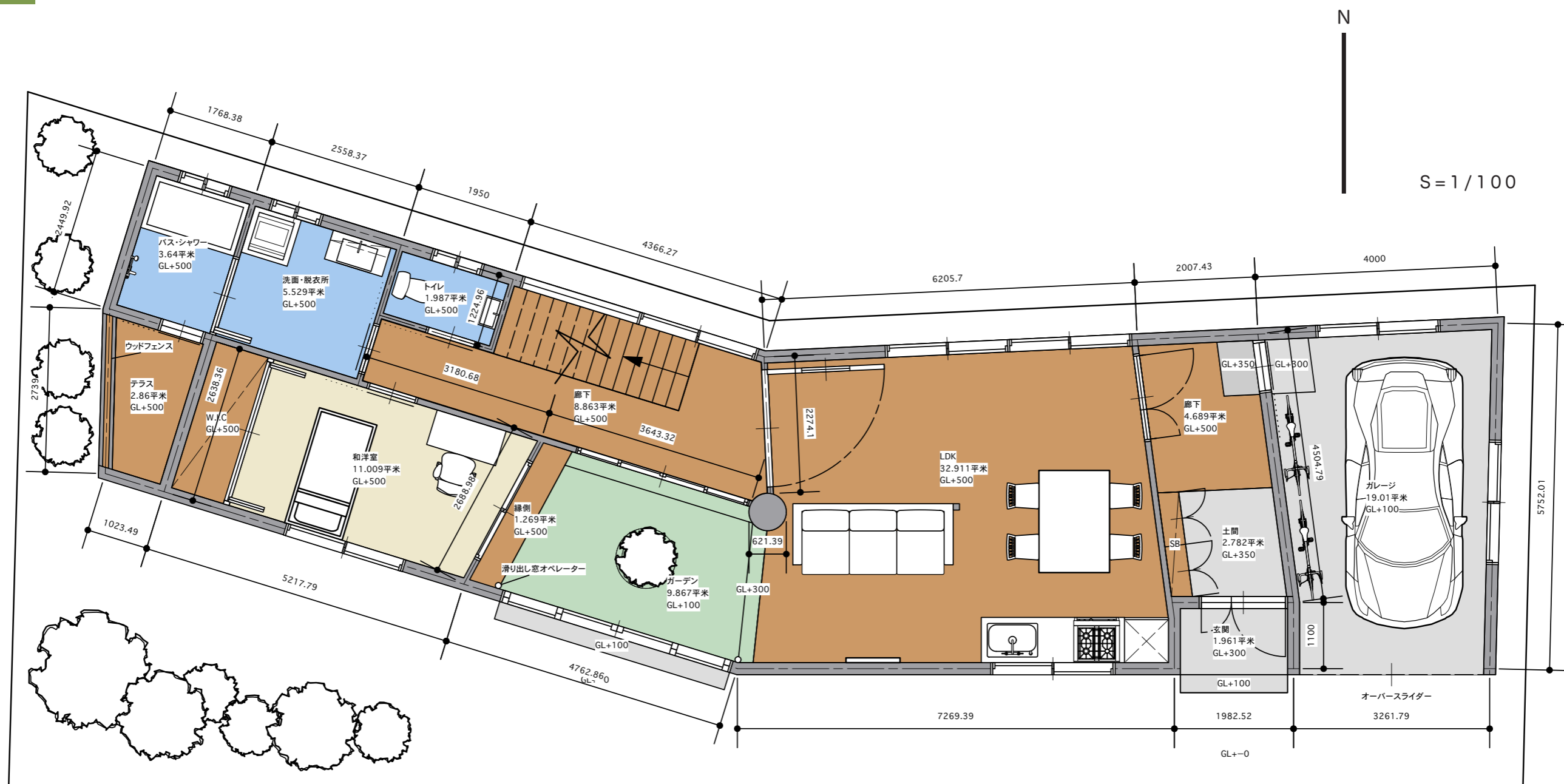
「空間の中にいる人が自然との繋がりを感じられるようにする為の設計や手法の事である」

この考えを起点とし私が設計したのは、「外を持つ家」
山から吹き下ろす風と、天から差す光。住宅に周りの環境を活かし、その恩恵を余す所なく享受するよう「くの字型」に設計し、家の中にいてもまるで外にいるかのような感覚を味わえるデザインとした。





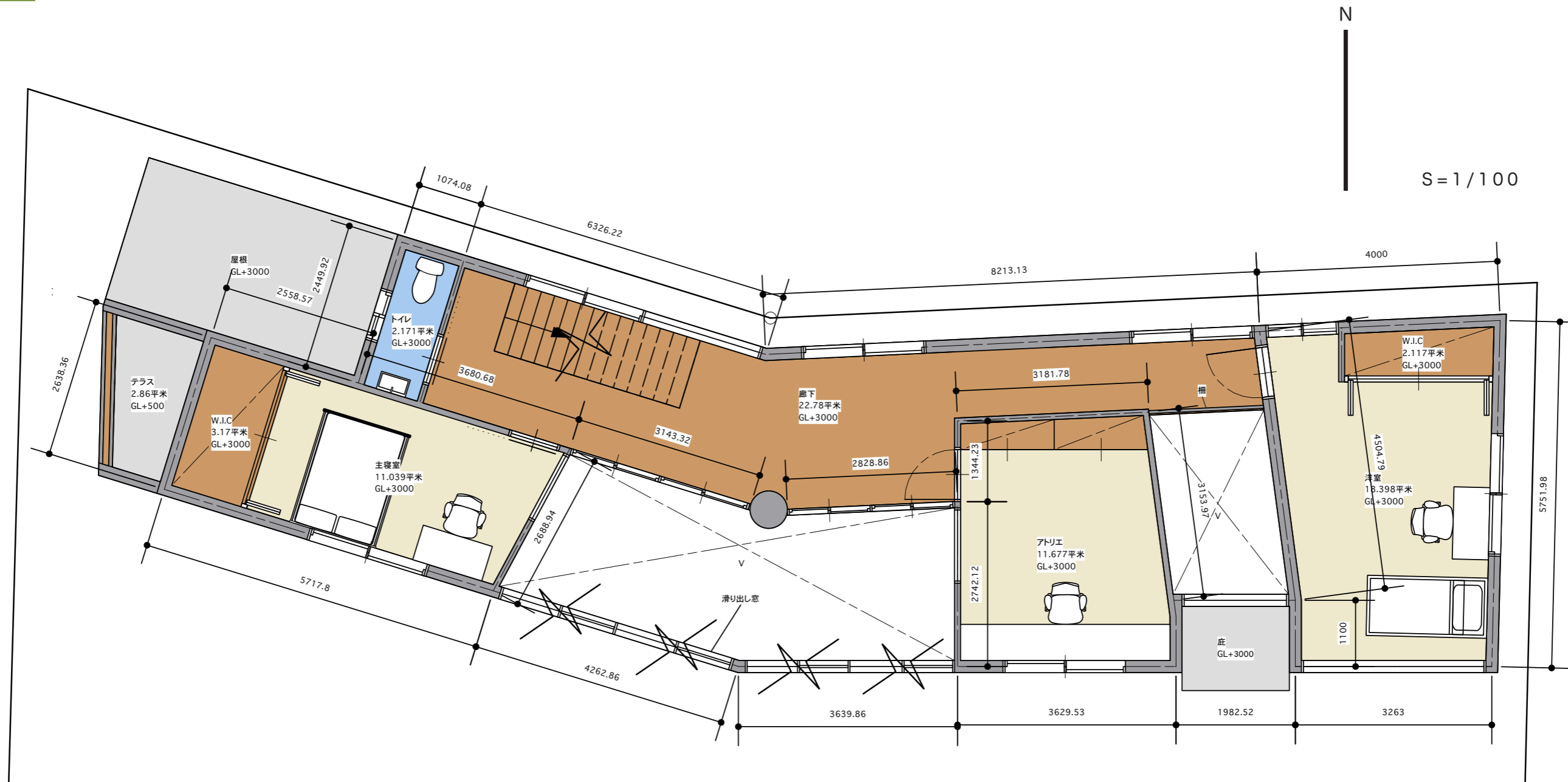
この住宅のゾーニングはコンセプトでも前述した通り、周りの環境を活かして考えた。太陽の光を受け止めるには、凸型すると朝日から夕日まで部屋の中に日が当たる。風については、逆の凹型にすることによって風が集まりやすくなる。そしてその中心には自然である「外」が生まれる。



住宅を北の山側に寄せることにより、道路からの視線を通りづらくした。エントランスからリビングへ繋がる事で、家族同士のコミュニケーションを促進させている。リビングに入るとまず目立つのは、祖母のガーデニングスペース。ここはリビングと直通しており、吹き抜けもあるため、家の中からの視認性が高い。それによって自然との繋がりがより感じられる他、高齢になった祖母を見守る事ができる。祖母の部屋に隣接している緑側は、祖母自身が作り上げたガーデニングを眺めて楽しんで頂く為に設置した。バス・シャワーの南にあるテラスは、火照った体を涼める為のスペースである。普通の住宅には無いこのスペースで、ちょっとした贅沢を味わう事ができる。

中央の柱に設置されている大きな扉は防火扉をイメージしたもの。これはリビングのエアコンの効率を高める為のものである。また、閉じた状態でも滑り戸で行き来が可能。

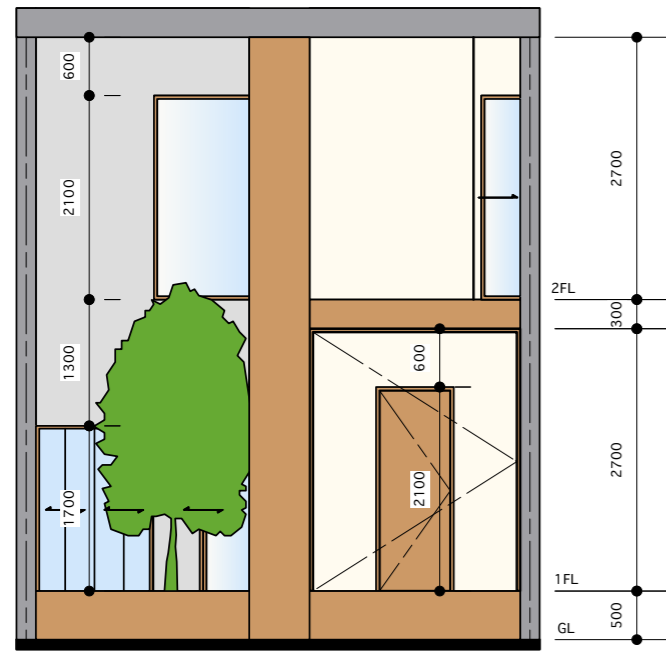




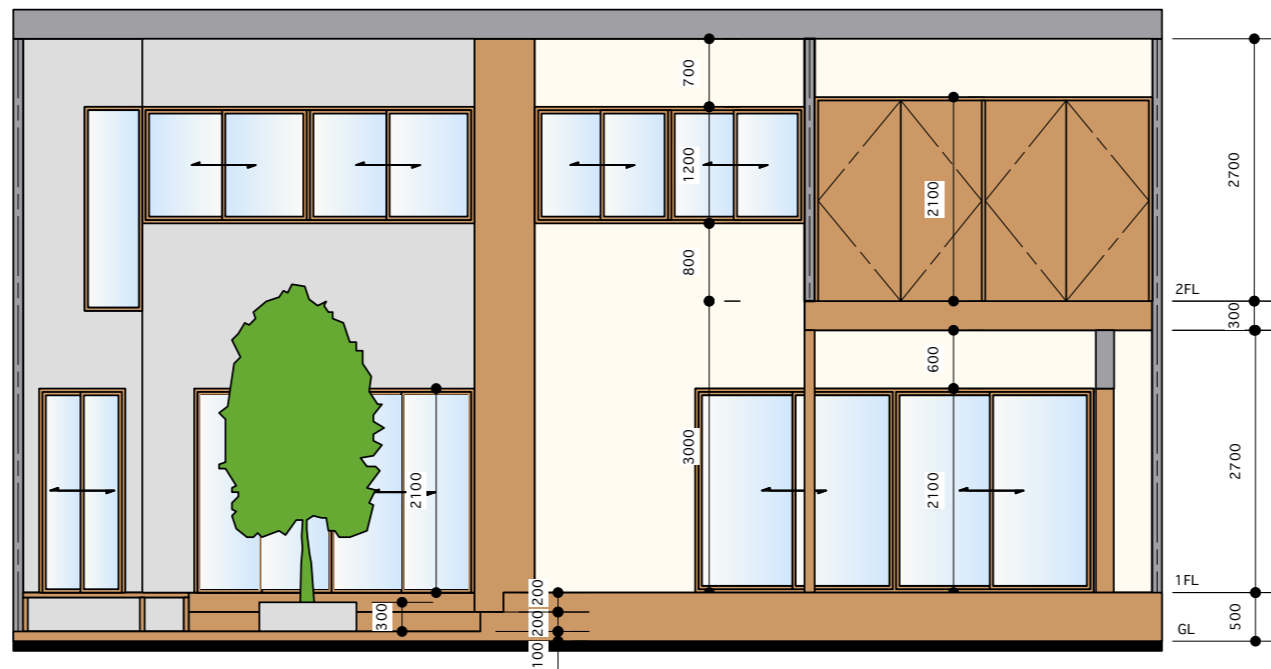
二階は吹き抜けを多用し、窓も多く設置されている為、前述の通り視認性が高い。二階からも祖母のガーデニングを見守る事ができる。ガーデニングスペース南側の窓の上部には滑り出し窓が設置されており、これは北の山からの風を利用した重力換気を目的としている。重力換気は自然の法則であり、ガーデニングスペースに取り入れる事で、よりバイオフィリックデザインを感じる空間となっている。また、夫婦が作業できる部屋を吹き抜けに位置させることで、作業中でも自然を感じることができる。子供に関しては、高校卒業後に一人暮らしを始める事を予想してあえて吹き抜けから離れた場所へ部屋を設計した。これから先も家に残り続けるであろう夫婦を主体とし、生活様式の変化に合わせたデザインとなっている。

リビングの吹き抜けのイメージ。光を多く取り入れ、視認性が高い。

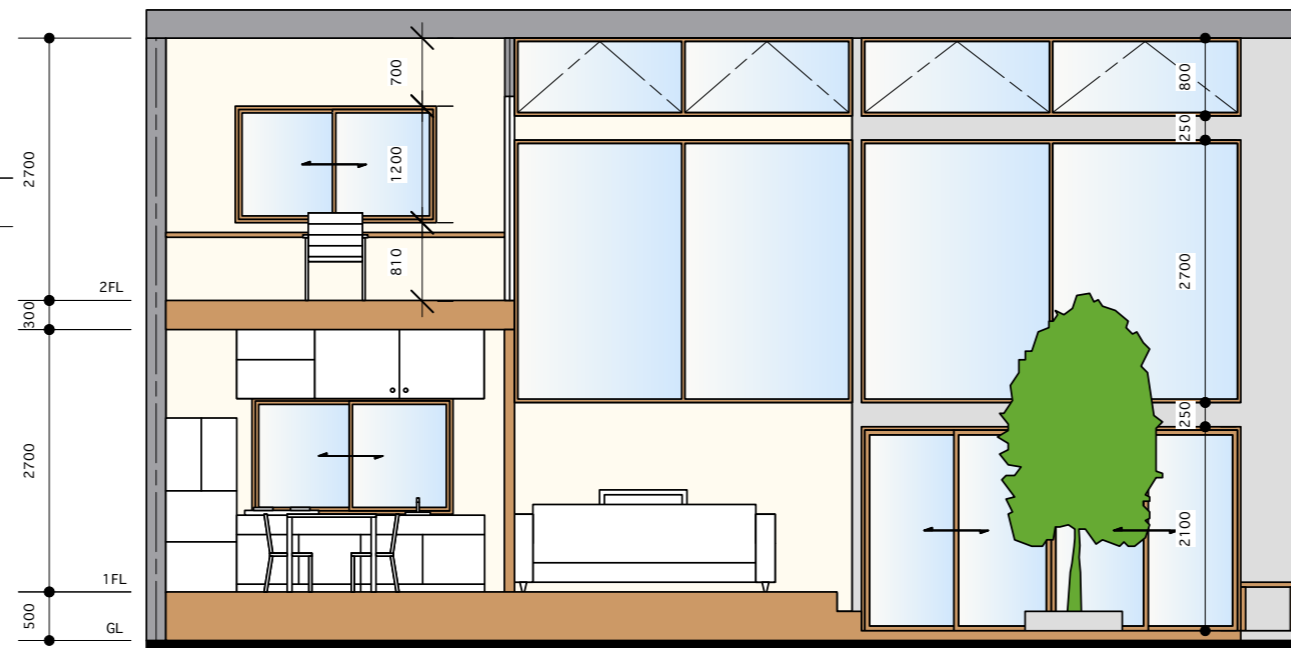




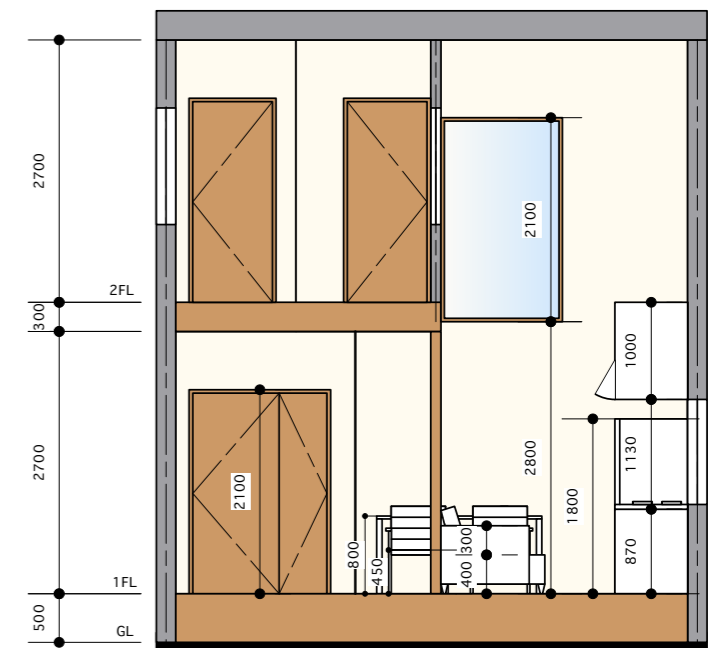
D



A



C



B





02.

TERACCE ROOM

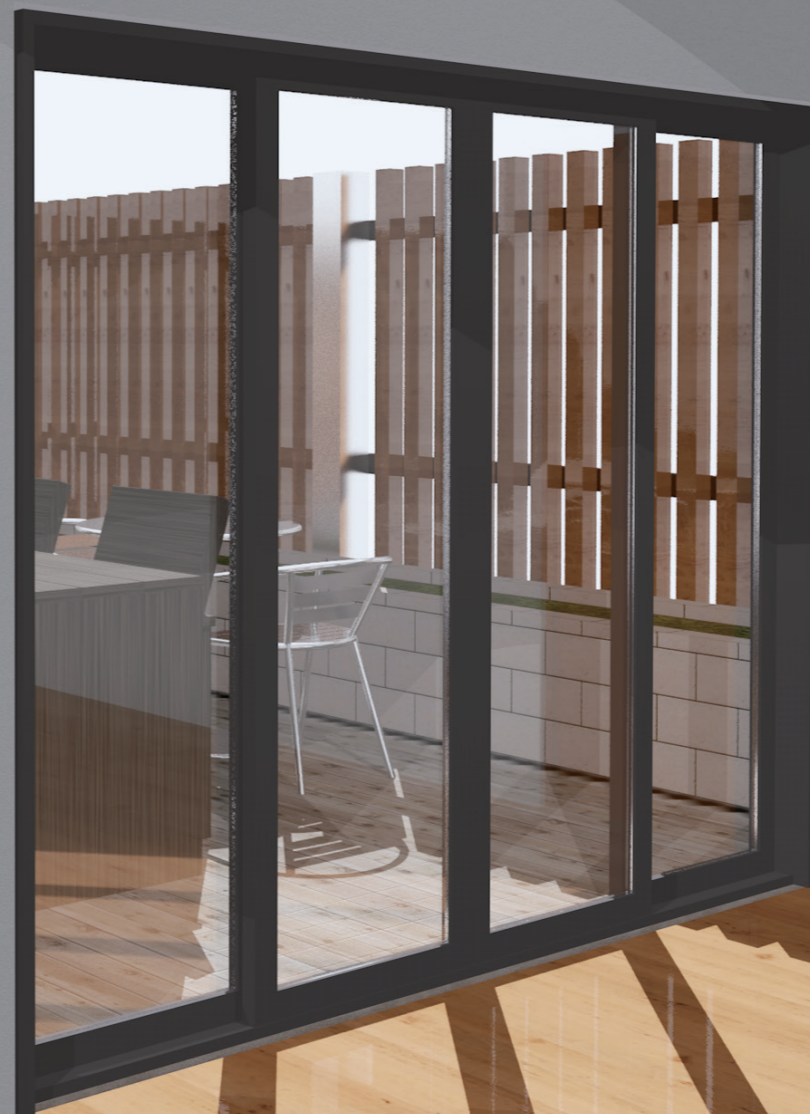
自分だけのテラスを暮らしのすぐそばに

CONCEPT

自分だけのテラスを暮らしのすぐそばに。

いつでも自分だけの外空間でくつろぐ事ができる。朝起きてそのままテラスへ出て、朝日と新鮮な空気を浴びて目覚める、というような特別な瞬間を体験できる。

また、広く開口した窓によって光を多く取り入れる事で室内にいても外空間の雰囲気を感じられる。






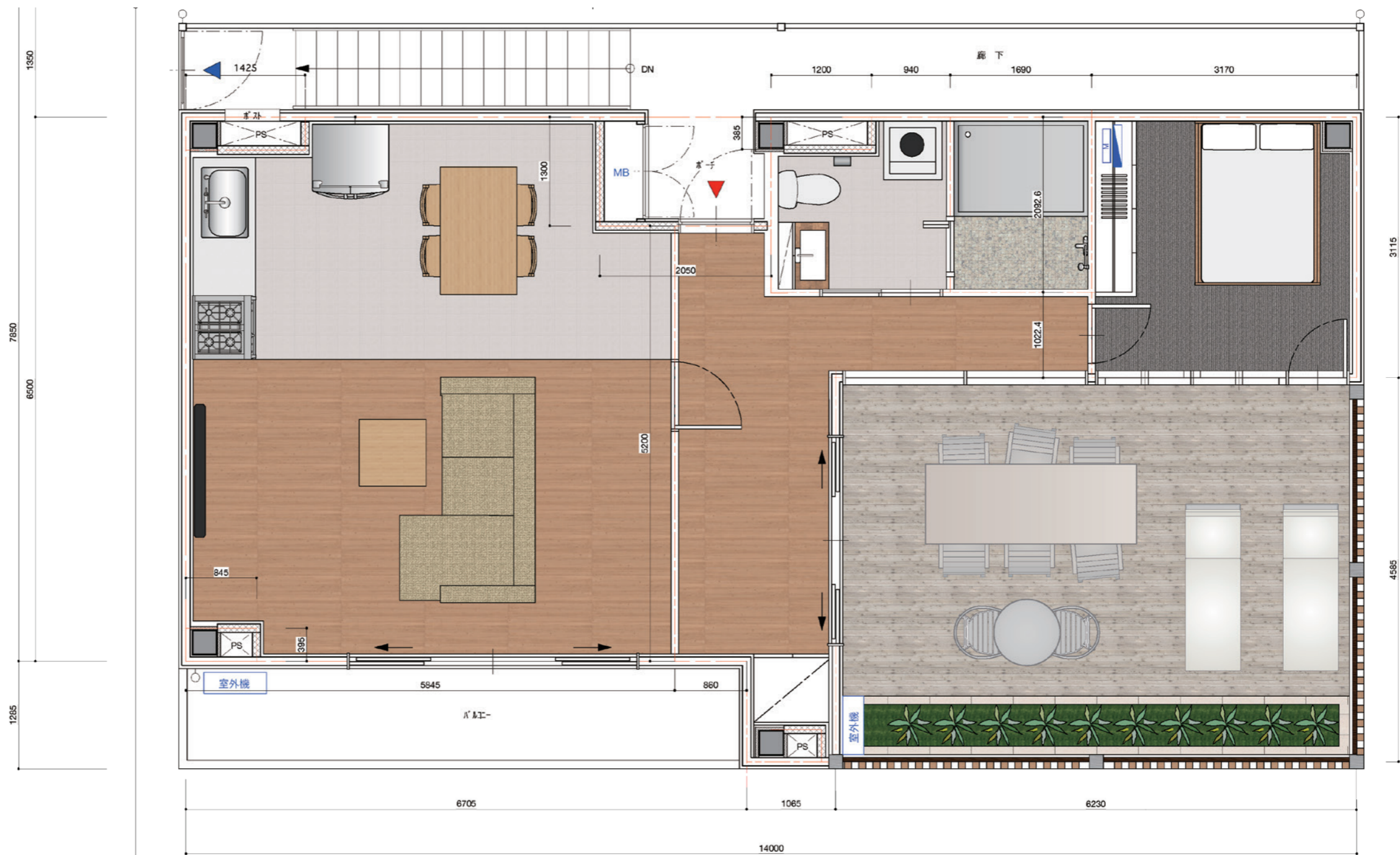
この作品は二階建ての併用住宅の二階の住宅部分をデザインした。
一階が店舗になってしまうとせっかく庭があっても活用しづらく、二階にテラスを置くことで自然との繋がりを保ち、単なる住宅部分ではない付加価値をつけることを狙いとしている。



02.

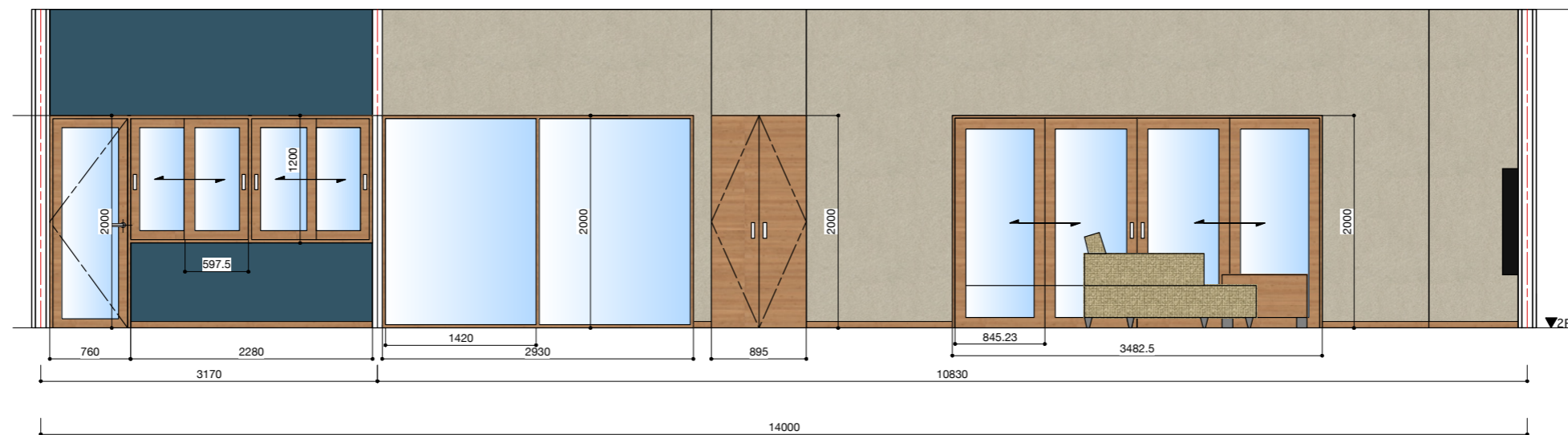
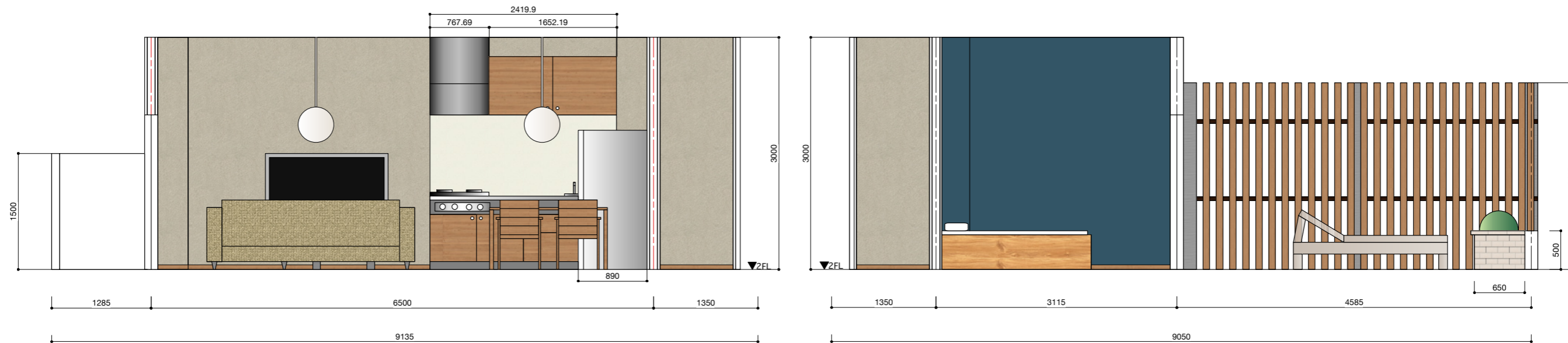
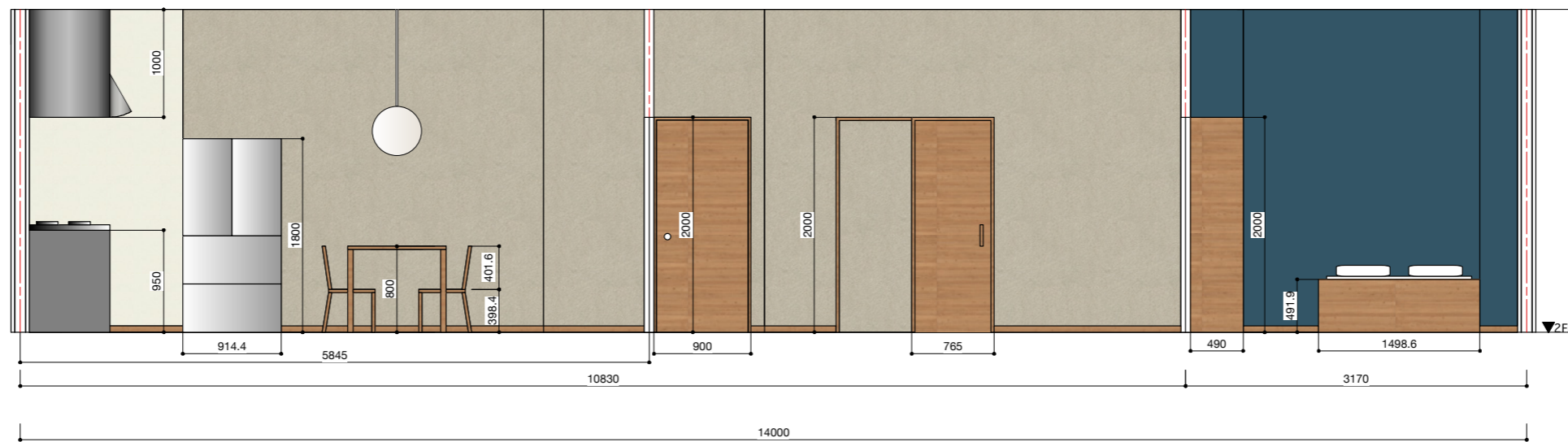
PLAN 2ND FLOOR


 S = 1/50



最も重要なテラスの位置はベッドルームに隣接させた。テラスから差し込んでくる光でスッキリと目覚め、そこから気持ちの良い一日が始まる。天気の良い日であればベッドルームから直接テラスへ出て、そこで体操をしたり朝食も摂れる。二階にある「自分だけのテラス」であれば、人目を気にせずにこういったことも可能になる。広さも確保してあるので、友人を呼んでバーベキューも面白い。

S = 1/50

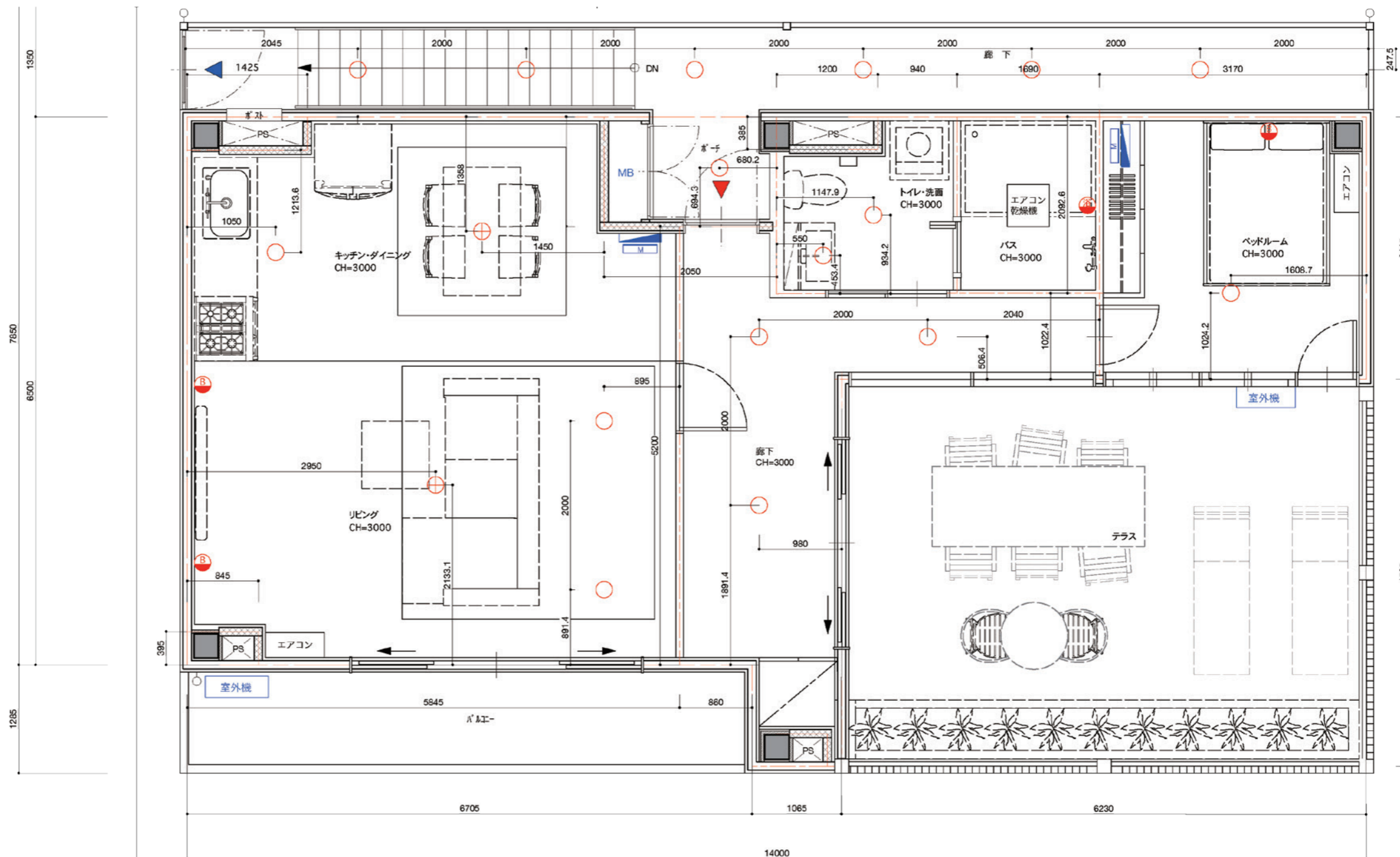


02.

CEILING PLAN



S = 1/50



照明器具リスト

記号	メーカー	品名	品番	ランプ	色温度	数量	埋込穴	埋込高さ	備考
○	Panasonic	ベースダウンライト	LGD3100LU1	LED9.0w	6200K	16	φ100	H=80	
⊕	Panasonic	ペンダントライト	LGB15041WF	LED7.4w	2700K	2	φ70	H=100	
⊗	Panasonic	ブラケットライト	XLGB82827CE1	LED5.0w	2700K	3			
⊗	Panasonic	浴室用ブラケットライト	LGW85017F	LED7.3w	2700K	1			



03.

2000冊のライブラリ

情報の森を散策する体験

CONCEPT

ライブラリ、という存在は、建築物であることを超えて書籍の集積ということ自体が醸し出す何ものかに繋がっている。

そこに収められた、古今東西、古典から現代までを網羅するライブラリの、というより室内の書籍の背表紙のありようからは、「知の集積」という権力であったり、欲望であったりと、様々な物理的な空間の背後にある意識の層が読み取れる。

今回私が試みたのは、木の雑木林を散策するような体験を作り出すこと。既存の空間を一つに繋ぎ、そこへ本の樹木を挿入する。その間を歩き回ることが、「情報の森」を散策するような体験にならないだろうか。

一本の樹木へ辿り着き、枝を掻き分け、一枚の葉へ辿り着く。その様子を現すデザインとした。

1 中央の壁により、空間が分断されている



2 中央の壁を撤去する



4 本棚により雑木林が現れ、散策する空間を形成



3 樹木となる本棚を設置



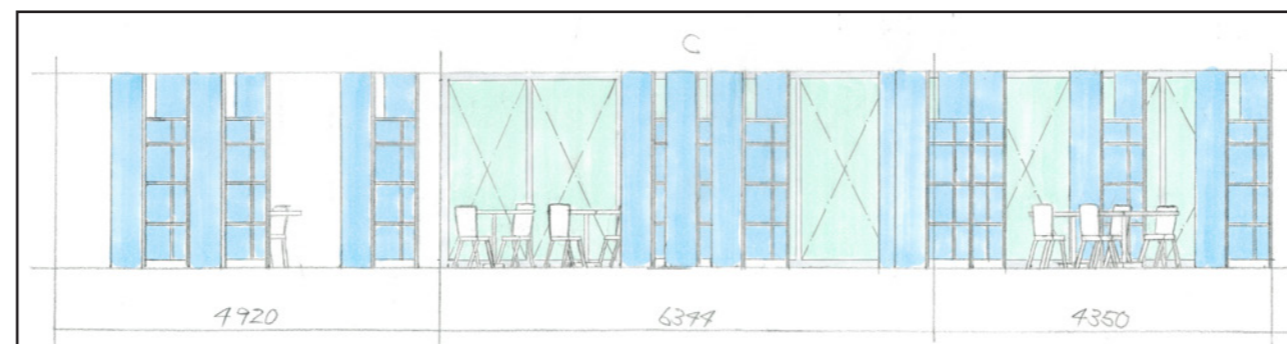
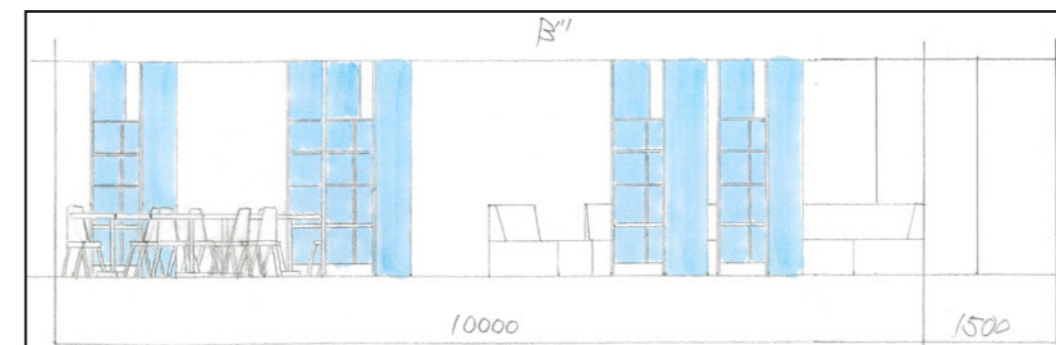
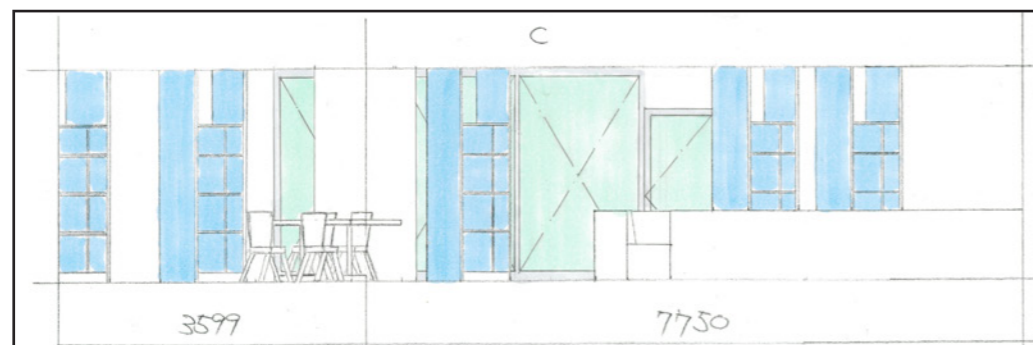
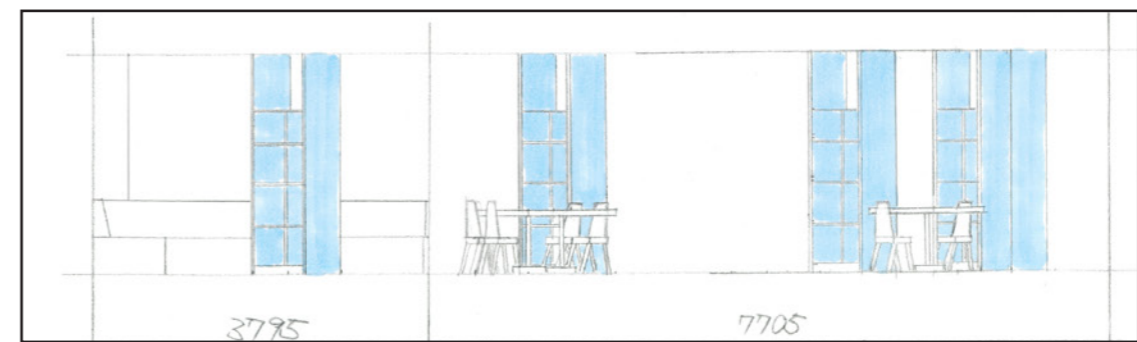
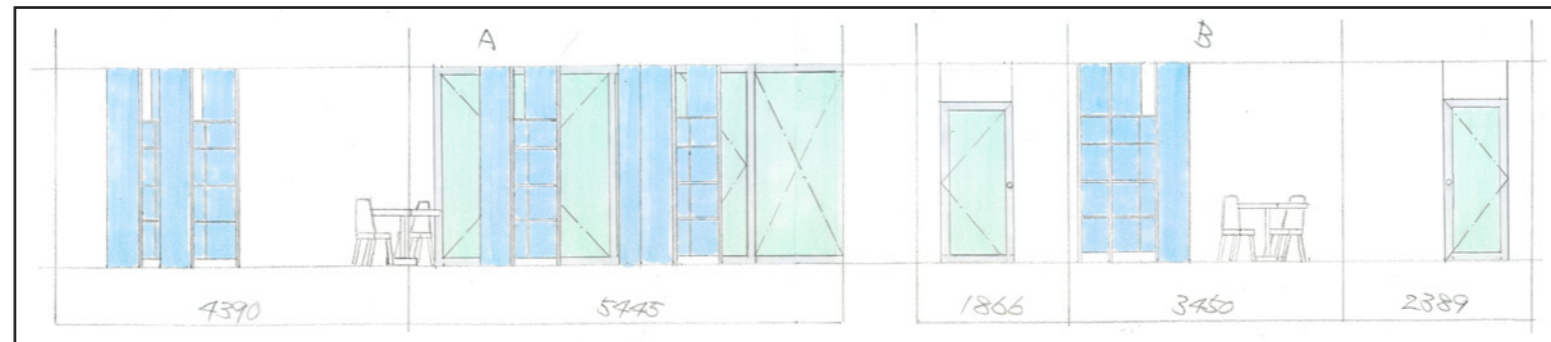
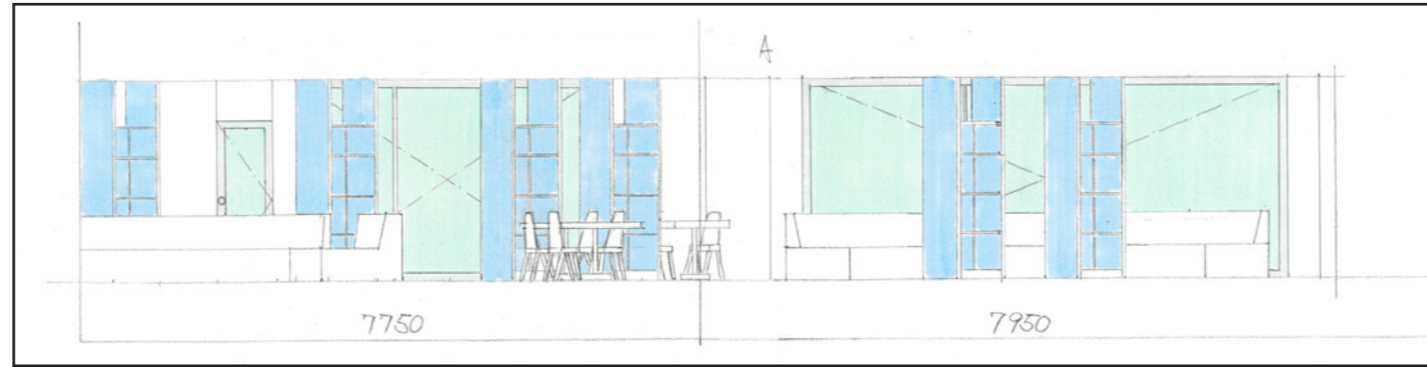
03.

PLAN



S=1/100

床材は無垢フローリングを使用し、柔らかく温かみのある印象を与える。あまり動線のない場所にはアクセントとして人工芝を使用し、森の中のような演出をしている。
本棚、机については乱雑に配置しているが、ある程度の動線は確保するようにしている。



S = 1/50

